



1 | 特集 水郷日田の夏の風物詩

## 日田に伝わる文化財「鶺鴒」

水郷日田を象徴する文化財の一つであり、400年以上の歴史を誇る日田の鶺鴒。三隈川に浮かぶ遊船、かがり火の灯りなどが織りなす風景は、永年、夏の夜の風物詩として親しまれてきました。

市では、この貴重な文化財を守り遺していくための活動に取り組んでいます。今号では、日田の鶺鴒について紹介します。

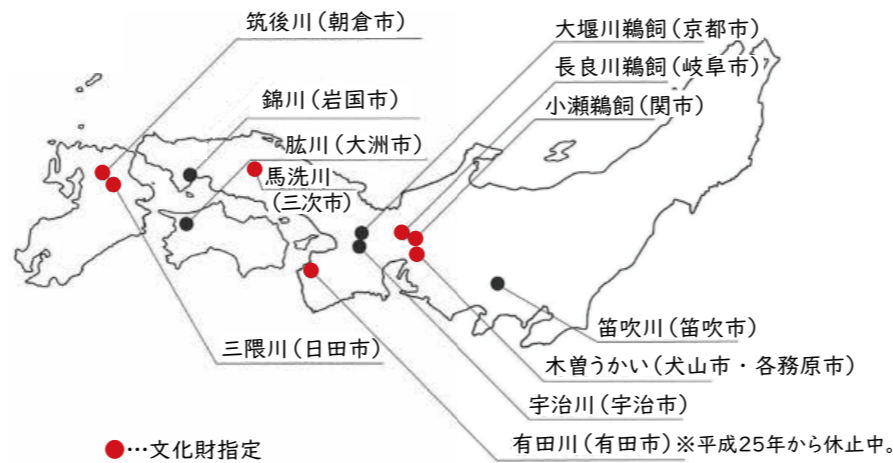
問文化財保護課文化財管理係 ☎247171 (市役所別館2階)

### 鶺鴒の歴史と今

「鶺鴒」とは、鶺鴒を巧みに操って川にいる魚を獲る漁法のことを言います。鶺鴒の歴史は古く、8世紀に成立した『古事記』や『日本書紀』などに鶺鴒に関する記述が見られます。日本以外では、中国大陸でも実施されており、ヨーロッパにおいても16-17世紀に鶺鴒が行われた記録が残っています。

そんな歴史ある鶺鴒ですが、現在、日本では12か所(休止中を含む)で行われておらず、そのうち日田を含む7か所が文化財に指定されています。

日田の鶺鴒は、岐阜県の長良川、愛媛県の大洲と並び、「日本三大鶺鴒」の一つに数えられており、昭和41年3月22日に県の無形民俗文化財に指定されました。また、岐阜県の長良川では、毎年5月中旬から10月中旬の間、宮内庁へ納める鮎を獲る「御料鶺鴒」として、「宮内庁式部職鶺鴒」に任命された鶺鴒匠が鶺鴒漁を行っています。



### 伝統的漁法「鶺鴒」

鶺鴒を操って、鮎などの川魚を獲る人のことを「鶺鴒匠」と言います。そして、鶺鴒に使用される鶺鴒のほとんどは、カツオドリ目ウ科に分類される「海鶺鴒」という鳥です。現在、海鶺鴒の捕獲は茨城県日立市の伊師浜海岸でしか許可されていないため、そこで捕まえられた海鶺鴒が全国の鶺鴒匠に届けられています。

鶺鴒が魚をくわえると、喉の強い圧力で魚が失神し、その状態で吐き出させることによって、魚を傷つけずに獲ることができるのです。魚を行っている間は、魚を飲み込めないように縄で鶺鴒の喉を細くし、鶺鴒匠が手で鶺鴒の首を下から押し上げることで、魚を吐き出すようになっています。

日田の鶺鴒匠は鶺鴒小屋で鶺鴒を飼っており、そこで漁に必要な信頼関係を築いていきます。